

# 「危険物施設に設置する高発泡泡消火設備の技術基準のあり方に関する検討会」の開催

## 危険物保安室

### 1. 背景・目的

ラック式危険物倉庫等の危険物施設における危険物火災に対し、当該倉庫や区画内を高発泡の泡で埋め尽くすことで効果的に消火することが可能な新しい技術を用いた消火設備（高発泡泡消火設備）が開発されています。このような消火設備を危険物施設に導入することにより、危険物施設の安全確保に資するものとなることから、実証実験等により消火性能等を検証し、当該消火設備を危険物施設に設置する場合に必要な技術基準策定のための検討会を発足し、7月23日に第1回検討会を開催しました。

#### 高発泡泡消火設備

一般的に泡消火設備は、水による消火方法では適さない油火災等について、泡ヘッドから放出された泡による冷却効果と、油膜等を覆うことによる窒息効果により消火することが期待される設備ですが、高発泡泡消火設備は、膨張比80～1000程度の泡で、放出口から大量の泡を一気に放出し、建築物の区画内や対象設備を泡で埋め尽くすことでより大きな窒息効果により消火することとされています。

高発泡泡消火設備は、消防法第17条に規定される設備（防火対象物に設置するもの）については、すでに技術基準が消防法施行規則第18条で定められており、航空機格納庫等に設置されていますが、危険物施設に設置する高発泡泡消火設備に関する具体的な技術基準は未だ定められておらず、特例等を用いて設置している例があります。

### 2. 検討項目

検討会では、主に次の項目について検討を行います。

- ・高発泡泡の消火性能に関する事項
- ・高発泡泡消火設備の効果的な消火方法のあり方に関する事項
- ・上記を踏まえた高発泡泡消火設備に係る技術基準の策定に関する事項

### 3. 第1回検討会の内容

第1回検討会では、検討会の趣旨やスケジュール、高発泡泡消火設備の設置状況、ラック式倉庫を主眼とした実証実験の内容について事務局から説明が行われた後、質疑応答、情報交換及び実証実験の詳細に関する検討が行われました。

### 4. 検討会のスケジュール

- ・第1回 平成25年7月23日
- ・実証実験 平成25年10月中旬頃～平成26年1月中旬頃まで（予定）
- ・第2回 平成26年2月（予定）
- ・第3回 平成26年3月（予定）

本検討会の検討結果は、平成25年度中に「危険物施設に設置する高発泡泡消火設備の技術基準のあり方に関する検討会報告書」として取りまとめる予定です。

#### 危険物施設に設置する高発泡泡消火設備の技術基準のあり方に関する検討会構成員

（敬称略・五十音順）

##### 【座長】

須川 修身 諏訪東京理科大学 システム工学部機械システム工学科 教授

##### 【委員】

青戸 久明 日本危険物倉庫協会 理事  
 大谷 英雄 横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授  
 小川 耕司 一般社団法人日本消火装置工業会  
 落合 勇 一般財団法人日本消防設備安全センター 企画研究部副部長  
 熊本 正俊 一般社団法人日本化学工業協会 環境安全部 部長  
 杉山 章 危険物保安技術協会 業務部業務課長  
 高橋 俊勝 川崎市消防局 予防部危険物課長  
 内藤 浩由 消防庁消防大学校消防研究センター 技術研究部 主任研究官  
 中村 秀三 日本消防検定協会 消火・消防設備部 消火設備課長  
 中村 良彦 一般社団法人日本産業機械工業会 運搬機械部 流通設備委員会 建築分科会 分科会長  
 橋本 光正 一般社団法人日本塗料工業会 専務理事  
 山口 克己 東京消防庁 予防部危険物課長  
 吉田 一史 石油化学工業協会 保安専門委員会 消防防災専門委員長  
 和田 公秀 尼崎市消防局 予防課長

#### 問い合わせ先

消防庁危険物保安室 危険物施設係 中嶋、各務  
 TEL: 03-5253-7524